

辰野町塩尻市小学校組合立
両小野小学校長寿命化計画

令和 3（2021）年 3 月

辰野町教育委員会

辰野町塩尻市小学校組合立
両小野小学校長寿命化計画

計画期間

令和3（2021）年度～令和12（2030）年度

辰野町塩尻市小学校組合立 両小野小学校長寿命化計画：目次

第1章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等	1
1 背景	1
2 目的	2
3 計画期間	2
4 対象施設	2
第2章 学校施設の目指すべき姿	3
1 学校施設の目指すべき姿	3
(1) 安全性	3
(2) 学習活動への適応性	3
(3) 地域の拠点化	3
2 グランドデザイン	4
第3章 学校施設の実態	5
1 学校施設の運営状況・活用状況等の実態	5
(1) 対象施設一覧	5
(2) 児童数及び学級数の変化	6
(3) 学校施設位置図	7
(4) 学校施設関連経費の推移と修繕履歴	8
(5) 学校施設の保有量	12
2 今後の維持・更新コスト（従来型）	13
3 学校施設の老朽化状況の実態	14
(1) 調査方法	14
(2) 劣化状況の評価方法	17
4 構造躯体の健全性の把握	18
5 劣化状況の現地調査結果	19
6 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）	20

第4章 学校施設整備の基本的な方針等	21
1 学校施設の規模・配置計画等の方針	21
2 改修等の基本的な方針	22
3 長寿命化の方針	23
4 目標耐用年数の設定	24
5 更新周期	25
6 今後の方向性の定義	26
第5章 基本的な方針を踏まえた施設整備の水準等	27
1 改修等の整備水準	27
2 維持管理の項目・手法等	29
第6章 長寿命化の実施計画	31
1 長寿命化の実施計画（中・長期計画）	31
2 優先順位の考え方	31
3 学校施設の実施計画	33
4 今後の維持・更新コスト（中・長期計画）	36
第7章 長寿命化計画の継続的運用	37
1 情報基盤の整備と活用	37
2 財源の確保	37
3 推進体制等の整備	38
4 フォローアップの実施方針	38

第1章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

1 背景

昭和28(1953)年4月に、「小野村筑摩地村小学校組合立両小野小学校」として創立しました。昭和34年(1959)年4月に、筑摩地村を含む1町4村の合併により塩尻市が誕生し、「小野村塩尻市小学校組合立両小野小学校」となり、昭和36年(1961)年4月に、小野村が辰野町へ編入合併し、現在の「辰野町塩尻市小学校組合立両小野小学校」となりました。

学校施設は、平成4(1992)年度に改築された給食室以外は、建築後40年以上が経過し、老朽化が進んでいます。今後、維持管理、更新等には膨大な経費が必要になると予想されます。

国においても施設の老朽化は喫緊の課題と位置づけ、平成25(2013)年11月に「インフラ長寿命化基本計画」を定め、国民の安全安心を確保し、中長期的な維持管理、更新等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図る方針が示されました。

これを踏まえ文部科学省は、平成27(2015)年3月「文部科学省インフラ長寿命化計画(行動計画)」を策定しました。この計画を基に、学校施設の長寿命化^{*1}計画を立て、学校施設の機能の確保をすることが求められています。

また、学校施設の整備にあたっては、単に劣化した建築物や設備を改修するだけでなく、その機能や性能を時代の要請に合った水準まで引き上げ、安全安心な施設環境の確保、教育環境の質的向上、多目的利用等を目指して再生を行うことも求められています。

^{*1} 長寿命化：計画的な保全(修繕や改修)を実施することにより、建物の構造的・機能的な寿命(耐震)を延ばすことに加え、建物の機能や性能を現在の学校が求められている水準まで引き上げる改修を行うこと。

2 目的

「辰野町塩尻市小学校組合立 両小野小学校長寿命化計画（以下「本計画」という。）」は、計画の背景を踏まえて、現状の把握・分析に基づき、教育環境の質的改善も考慮しながら、今後の学校施設整備の具体的な計画を検討します。

現地調査を踏まえた劣化診断による劣化度等の評価を行い、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を勘案した長寿命化計画を策定することを目的とします。

長寿命化計画では、これまでの「事後保全」から「計画保全」へと維持管理の手法を転換し、施設の機能を常に良好な状態に保つことが重要となります。

3 計画期間

本計画の計画期間は、概ね向こう 10 年間（令和 3（2021）年度～令和 12（2030）年度）を対象期間とします。

ただし、この期間内でも児童数の変化、社会経済情勢、国の補助制度などの動向により、柔軟に計画を見直すこととします。

なお、コスト試算期間は計画上のゆとりをもたせて 40 年とします。

4 対象施設

辰野町塩尻市小学校組合立 両小野小学校を対象とし、学校施設内に存在するすべての建物 10 棟、プール 1 ヶ所を対象とします。

第2章 学校施設の目指すべき姿

1 学校施設の目指すべき姿

(1) 安全性

学校施設は、児童の学習と生活の場であるとともに、地域コミュニティや防災拠点・避難所としての役割を果たす施設であるため、安全かつ安心な施設環境を確保する必要があります。地域防災計画をふまえた防災機能の強化を図る必要もあります。

(2) 学習活動への適応性

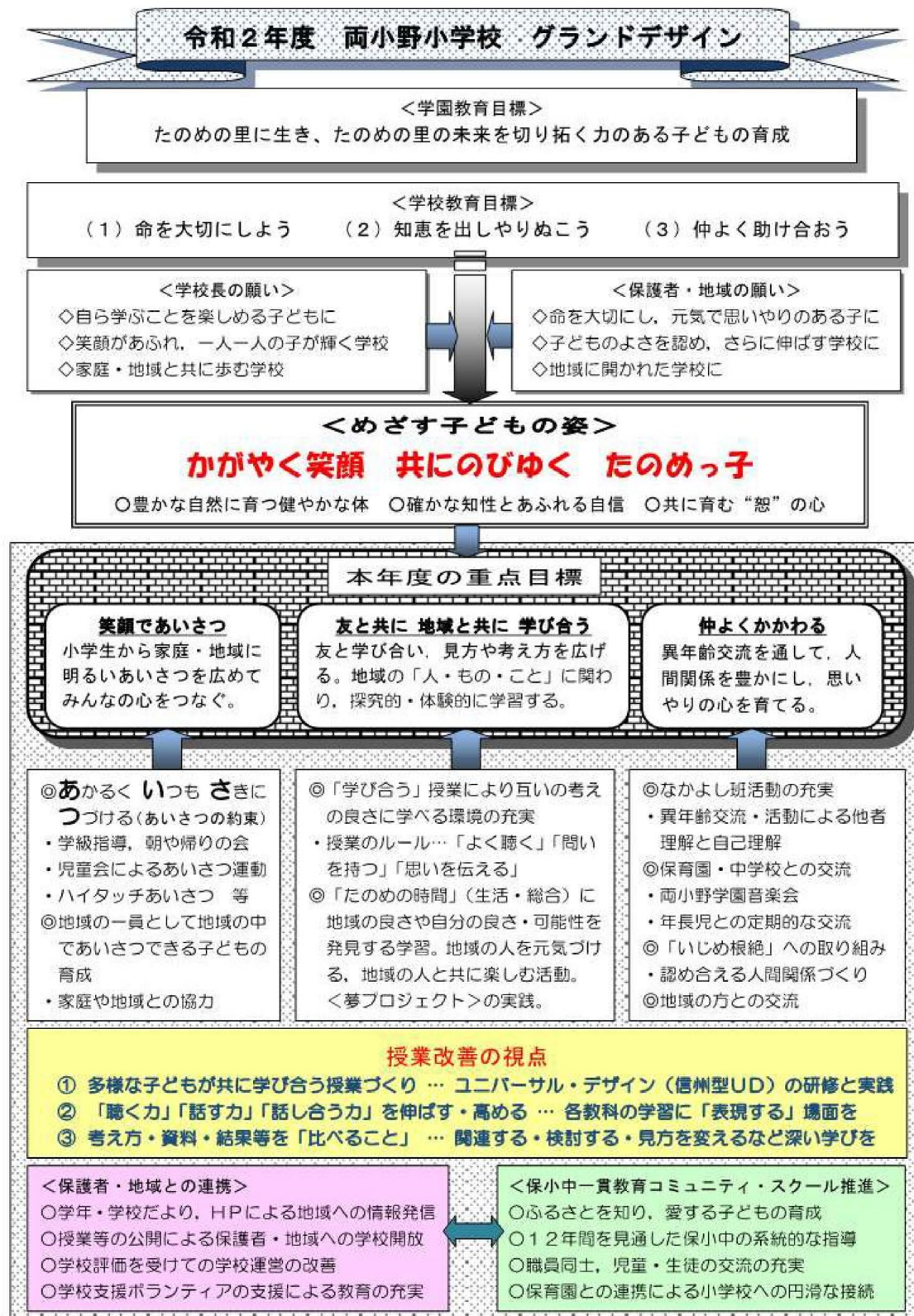
近年の教育内容・方法の多様化や児童の生活様式の変化、猛暑対策等を踏まえ、時代に即した教育環境の確保に取り組みます。また、情報化の進展と普及に伴い、ICTを活用した教育を充実させていきます。

特別支援教育の推進にも配慮します。

(3) 地域の拠点化

学校施設は地域の拠点となる場所であることから、地域に開かれた学校づくりをすすめていくことが求められています。地域と学校が連携し、児童の育成に努めるとともに、社会的なニーズに対応できるよう維持・管理を進めていきます。

2 グランドデザイン



第3章 学校施設の実態

1 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

(1) 対象施設一覧

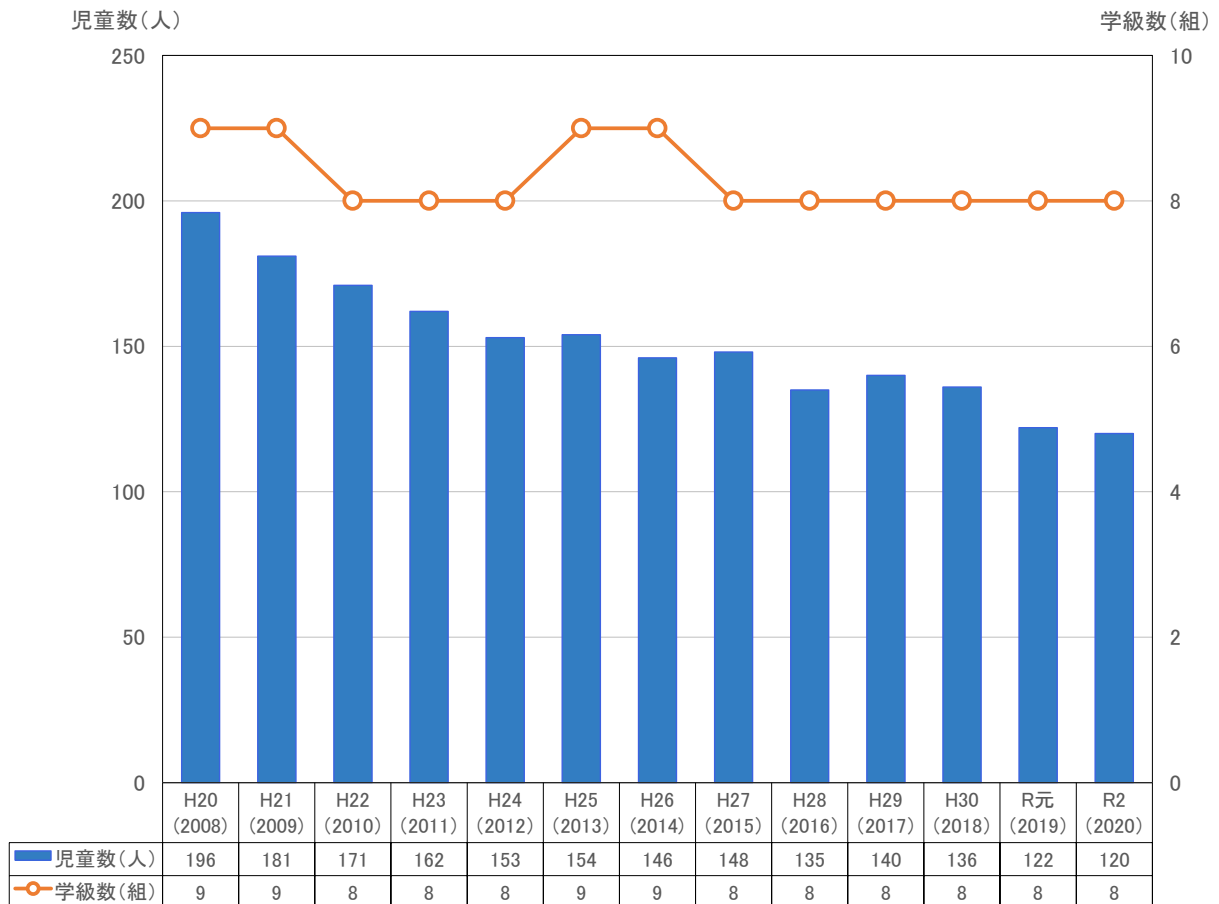
◆図表 3-1 学校施設一覧表

番号	施設名	建物名	所在地	構造	延床面積 (㎡)	建築年度 (西暦)	建築年度 (和暦)
1	両小野小学校	管理棟・特別教室棟	上伊那郡辰野町大字小野1164	RC	1319.00	1979	S54
2	両小野小学校	普通教室棟	上伊那郡辰野町大字小野1164	RC	686.00	1979	S54
3	両小野小学校	総合学習センター	上伊那郡辰野町大字小野1164	RC	281.00	1979	S54
4	両小野小学校	普通教室棟	上伊那郡辰野町大字小野1164	RC	2454.00	1980	S55
5	両小野小学校	屋内運動場(大体育館、資料室・廊下)	上伊那郡辰野町大字小野1164	RC	1060.00	1980	S55
6	両小野小学校	屋内運動場(小体育館)	上伊那郡辰野町大字小野1164	RC	195.00	1962	S37
7	両小野小学校	屋内運動場(小体育館器具室・廊下)	上伊那郡辰野町大字小野1164	W	79.00	1962	S37
8	両小野小学校	音楽室	上伊那郡辰野町大字小野1164	W	170.00	1962	S37
9	両小野小学校	プール付属室	上伊那郡辰野町大字小野1164	S	72.00	1980	S55
10	両小野小学校	給食室	上伊那郡辰野町大字小野1164	S	216.00	1992	H4
A	両小野小学校	プール	上伊那郡辰野町大字小野1164	FRP	375.00㎡ 75.00㎡	1980	S55

(2) 児童数及び学級数の変化

平成 20 (2008) 年以降の児童数の推移をみると、年により多少の増減はあるものの、減少傾向にあります。平成 20 (2008) 年に児童数 196 人であったのに対し、令和 2 (2020) 年には 120 人で、76 人 (約 39%) 減少しています。

◆図表 3-2 児童数の推移 (長野県教育委員会 教育要覧)



(3) 学校施設位置図

◆図表 3-3 学校施設位置図



(4) 学校施設関連経費の推移と修繕履歴

平成 27 (2015) ～令和元 (2019) 年度の 5 年間の学校施設等関連経費は約 13～87 百万円で、年平均は約 17 百万円となります。

令和元 (2019) 年度は、空調設置工事を行っているため、施設整備費が高額となっています。

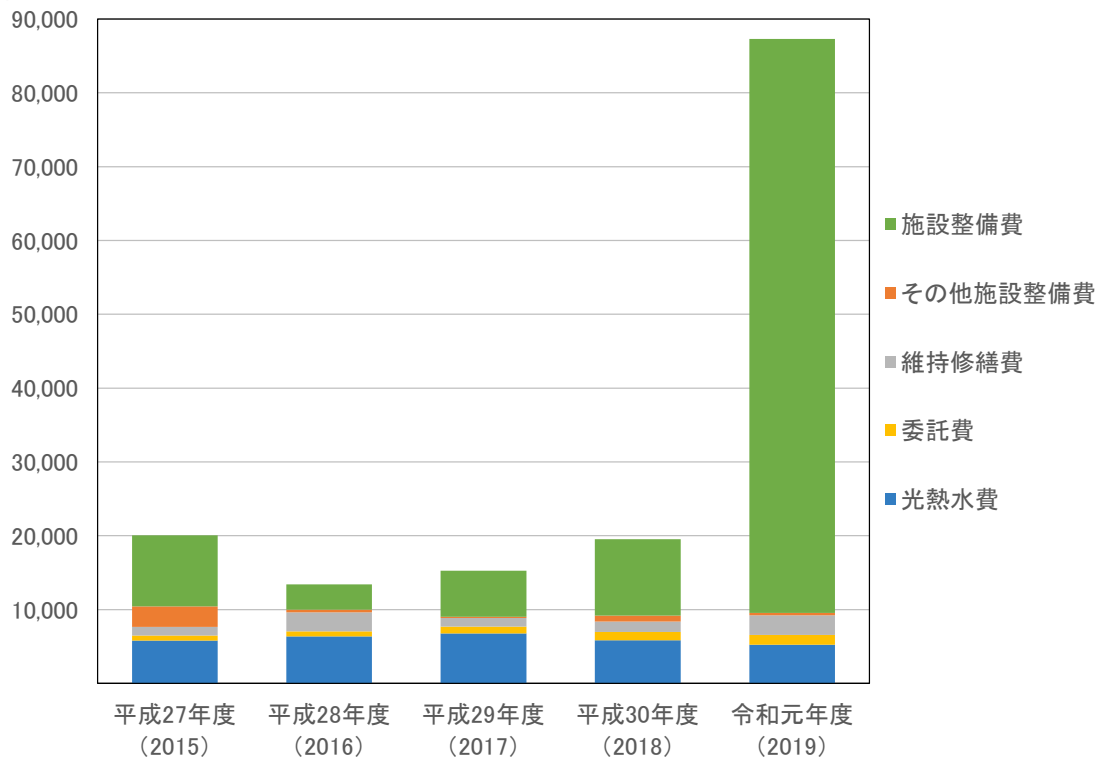
◆図表 3-4 学校施設関連経費の推移表

(単位:千円)

区分	年度	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	直近5年 平均
施設整備費		9,623	3,391	6,253	10,346	77,790	21,481
その他施設整備費		2,749	383	136	802	311	876
維持修繕費		1,166	2,590	1,183	1,425	2,662	1,805
委託費		714	671	944	1,134	1,320	956
光熱水費		5,785	6,361	6,754	5,824	5,235	5,992
合計		20,037	13,396	15,270	19,532	87,318	31,110

◆図表 3-5 学校施設関連経費の推移

(単位:千円)



◆図表 3-6-1 学校施設修繕等履歴調査表

千円単位

No.	施設名	建物名	修繕履歴		直近5年間の実績									
			建設時～平成26年度(2014)		平成27年度(2015)		平成28年度(2016)		平成29年度(2017)		平成30年度(2018)		令和元年度(2019)	
			工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額
1	両小野小学校	管理棟・特別教室棟			施設改修工事	1,598	緊急地震速報設備及び学校内放送設備連動作業	395	消防設備改修工事	1,102	雨漏り対策工事	163	家庭科調理室温水器設置工事	1,404
					施設改修工事設計監理	130	屋内消火栓ホース	121	汚水・汚物用水中ポンプ取替工事	313	水抜き栓取替修理	93	5年教室・職員室窓フラインド設置工事	363
					調理室黒板ホワイトボード貼り替え修繕	71			施設改修工事設計監理	124			家庭科調理室電気設備工事	341
												家庭科調理室温水器設置工事設計監理	112	
												校内電話移設	55	
												卓上型デジタルアンプ	121	
												特別教室・管理諸室空調設置工事(職員室、校長室、第一会議室、相談室、家庭科調理室)	27,972	
												特別教室・管理諸室空調設置工事設計	1,696	
												特別教室・管理諸室空調設置工事監理	1,132	
2	両小野小学校	普通教室棟			1・2年廊下雨漏り改修工事	950	1,2年生用トイレ排水詰まり除去修理	76	1・2年生トイレ改修工事	8,899	教室窓修繕工事	495		
					2学年教室流し台水抜き系統ゲートバルブ取替修理	72			1・2年生トイレ改修工事設計監理	734	普通教室空調設置工事(普通教室)	40,986		
					1・2年廊下雨漏り改修工事設計監理	71			普通教室空調設置工事設計	1,447	普通教室空調設置工事監理	1,631		
												特別教室・管理諸室空調設置工事(学習室)	No.1に含む	
												特別教室・管理諸室空調設置工事設計	No.1に含む	
												特別教室・管理諸室空調設置工事監理	No.1に含む	
3	両小野小学校	総合学習センター												

◆図表 3-6-2 学校施設修繕等履歴調査表

千円単位

No.	施設名	建物名	修繕履歴		直近5年間の実績															
			建設時～平成26年度(2014)		平成27年度(2015)		平成28年度(2016)		平成29年度(2017)		平成30年度(2018)		令和元年度(2019)							
			工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額						
4	両小野小学校	普通教室棟	H23 6年男子トイレ便器取替他	1,382	昇降口前外階段改修工事	6,318	もみの木・もみ学習室ゲートバルブ取替	133	養護学級前廊下雨漏り改修工事	2,959	普通教室空調設置工事設計	No.2 に含む	5年教室・職員室窓ブラインド設置工事	No.1 に含む						
			H24 児童昇降口屋根修繕	3,397		昇降口前外階段改修工事設計監理		454		栗の子組カーテン修理		130		教室窓修繕工事	No.2 に含む					
			H26 昇降口前改修工事他	14,153								図書室不凍栓修理		68	中校舎2階不凍栓修理	58	普通教室空調設置工事(特別支援学級・ボランティアルーム・普通教室)	No.2 に含む	普通教室空調設置工事監理	No.2 に含む
5	両小野小学校	屋内運動場(大体育館、資料室・廊下)	H23 体育館天井改修	5,833			保健室エアコン設置工事	267	体育館下階段修繕工事	302			体育館漏電修理	84						
			H25 体育館下駐車場出入口舗装改修他	7,916				体育館カーテンレール修理		184			体育館手洗水栓修理	59						
			H24 体育館耐震補強	98,357				体育館下水道凍結修理		86			体育館水銀灯スイッチ修理	51						
6	両小野小学校	屋内運動場(小体育館)																		
7	両小野小学校	屋内運動場(小体育館器具室・廊下)																		
8	両小野小学校	音楽室											特別教室・管理諸室空調設置工事(音楽室)	No.1 に含む						

◆図表 3-6-3 学校施設修繕等履歴調査表

千円単位

No.	施設名	建物名	修繕履歴		直近5年間の実績									
			建設時～平成26年度(2014)		平成27年度(2015)		平成28年度(2016)		平成29年度(2017)		平成30年度(2018)		令和元年度(2019)	
			工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額
8	両小野小学校	音楽室											特別教室・管理諸室空調設置工事設計	No.1 に含む
													特別教室・管理諸室空調設置工事監理	No.1 に含む
9	両小野小学校	プール付属室					ろ過材カートリッジ交換	168						
							プールろ過機修理	97						
10	両小野小学校	給食室	H23 ガスチームコンベクションオープン	2,499	低圧型温水ボイラー	1,706	換気扇フード網戸取付	84	給食室空調設備設置工事	2,192	給食室トイレ手洗水洗取替修繕工事	252	グレーチング取替修理	89
			H24 牛乳保冷库	830	給食室トイレ修繕	93	食器洗浄機	3,391	給食室エアコン設置工事設計監理	65			コンベクションオープン修理	78
			H24 冷凍冷蔵庫	667	フライヤー箆等	70							保管庫修理	67
					食器消毒保管庫修理	54							洗浄機修理	53
													特別教室・管理諸室空調設置工事(用務員室)	No.1 に含む
													特別教室・管理諸室空調設置工事設計	No.1 に含む
													特別教室・管理諸室空調設置工事監理	No.1 に含む
													給食事務室・休憩室空調設置工事	366
A	両小野小学校	プール			プール防水塗装工事	2,657			プール排水管修理	52	大プール飛込み台撤去工事	443		
													プール排水管修理	57

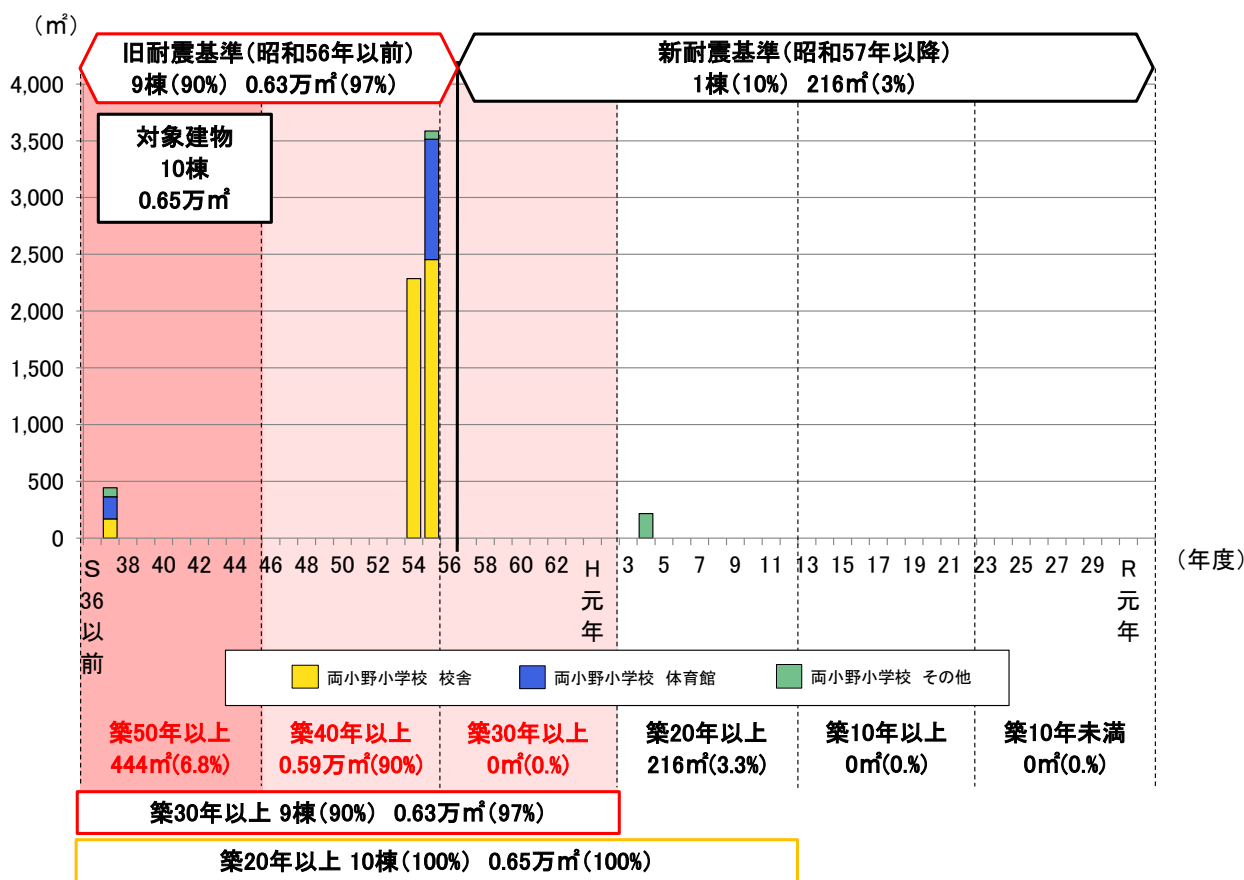
(5) 学校施設の保有量

築年別整備状況は図表 3-7 に示すとおりで、対象建物 10 棟中、新耐震基準により建築された建物は 1 棟で、残りの 9 棟は昭和 56 (1981) 年以前の旧耐震基準により建築された建物です。

旧耐震基準により建築された建物のうち、管理棟・特別教室棟 1 棟、普通教室棟 2 棟、総合学習センター1 棟、大体育館 1 棟、計 5 棟は、構造躯体の安全性が確認されています。

築年数では全ての建物が築 20 年以上であり、今後老朽化などへの対応、安全性を高める改修工事など、建物の適切な修繕や改修が必要になってきます。

◆図表 3-7 築年別整備状況

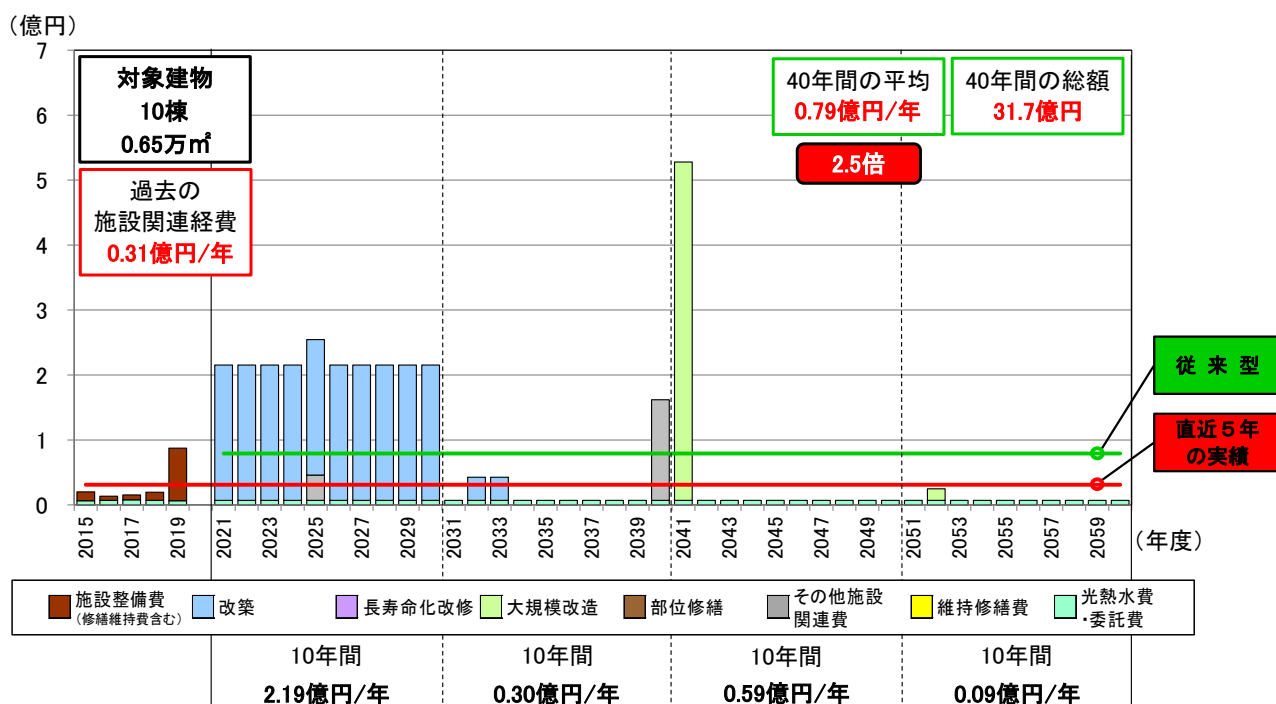


2 今後の維持・更新コスト（従来型）

学校施設において、従来どおり建築後 40 年前後の耐用年数で改築を行った場合、今後 40 年間のコストは 31.7 億円（0.79 億円/年）かかると試算されます。これは、直近 5 年間の施設関連経費 0.31 億円/年の 2.5 倍になります。特に今後 10 年間に改築が集中し、この期間は 2.19 億円/年と試算されます。

長寿命化によるトータルコストの縮減と予算の平準化を図り計画的に進めていく必要があります。

◆図表 3-8 今後の維持・更新コスト（従来型）



コスト試算条件（従来型）

・物価変動率、落札率は考慮しない。

基準年度：令和 2(2020)年度（試算期間：基準年の翌年度から 40 年間）

改 築：更新周期 40 年、工事期間 2 年、
更新周期より古い建物の改修を 10 年以内に実施
改築単価 330,000 円/㎡
（総務省「公共施設等更新費用試算ソフト」分類別更新単価 学校教育系施設）

大規模改造：実施年数 20 年周期、工事期間 1 年

プ ール：更新周期 改築 30 年、大規模改修 15 年
改築単価 プール建設費を現在価格に換算 大規模改修単価 改築単価の 25%
「その他施設関連経費」に計上

3 学校施設の老朽化状況の実態

(1) 調査方法

劣化状況の現地調査は、まず基本情報の整理、修繕履歴調査を行ったうえで、現地において建物ごとに目視点検を行い、調査結果を現地調査記録表に記録するとともに、劣化している部位等は現況写真を撮影しました。

◆図表 3-9 現地調査記録表（一部抜粋）

通し番号	4				
施設名	両小野小学校	学校番号	0914	調査日	令和2年8月20日
建物名	普通教室棟			記入者	〇〇 〇〇
棟番号	004	建築年度	昭和55 年度(1980 年度)		
構造種別	RC	延床面積	2,454 m ²	階数	地上 2 階 地下 階

部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の更新)		劣化状況 (複数回答可)	部分 小 広 規 範 的 模 型	特記事項	評価
		年度	工事内容				
1 屋根 屋上	<input type="checkbox"/> アスファルト保護防水	H24	児童昇降口 屋根修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 汚れ	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	軒天：漏水 痕、破損 樋：金物錆 (多数)、仕上 材剥れ(多 数)、破損、漏 水痕、変形	B
	<input checked="" type="checkbox"/> アスファルト露出防水			<input type="checkbox"/> 変退色	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
	<input type="checkbox"/> シート防水、塗膜防水			<input type="checkbox"/> 仕上材剥がれ	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
	<input checked="" type="checkbox"/> 勾配屋根(長尺金属板、折板)			<input type="checkbox"/> 錆・錆汁	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
	<input type="checkbox"/> 勾配屋根(スレート、瓦類)			<input checked="" type="checkbox"/> 変形・損傷・破損等	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
	<input type="checkbox"/> その他の屋根 ()			<input type="checkbox"/> 漏水痕	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
	<input type="checkbox"/> その他 ()			<input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
2 外壁	<input type="checkbox"/> モルタル等の塗仕上げ	R元	教室窓修 繕工事	<input checked="" type="checkbox"/> 汚れ	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	外床：タイル 破損、ひび割 れ、損傷	C
	<input type="checkbox"/> タイル張り、石張り	H27	昇降口前外 階段改修工 事	<input type="checkbox"/> 変退色	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
	<input type="checkbox"/> 金属系パネル	H26	昇降口前改 修工事他	<input checked="" type="checkbox"/> 仕上材剥がれ	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	建具：破損 (複数)	
	<input type="checkbox"/> コンクリート系パネル(ALC等)			<input checked="" type="checkbox"/> ひび割れ	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
	<input type="checkbox"/> その他の外壁 (RC+吹付)			<input checked="" type="checkbox"/> モルタル・タイル等の浮き	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	基礎：ひび割 れ(多数)	
	<input checked="" type="checkbox"/> アルミ製サッシ			<input checked="" type="checkbox"/> 錆・錆汁	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
	<input type="checkbox"/> 鋼製サッシ			<input checked="" type="checkbox"/> 変形・損傷・破損等	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/> 断熱サッシ、省エネガラス			<input checked="" type="checkbox"/> 漏水痕	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>			
<input type="checkbox"/> その他 (エフロッセンス)			<input checked="" type="checkbox"/> その他 (エフロッセンス)	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>			

部位	修繕・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)	評価		
3 内部仕上 (床・壁・天井) (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	<input type="checkbox"/> 老朽改修	【指摘事項】	床：破損、ひび割れ(複数)、漏水痕、仕上材剥れ、変形、 浮き、見切金物変形、摩耗(多数)、汚れ 壁：ひび割れ(多数)、漏水痕、仕上材剥れ、汚れ 天井：漏水痕、仕上材剥れ(多数)、汚れ(多数)、 汚れ(多数)、破損(多数)、変形、不陸 建具：開閉不良、枠仕上材剥れ 家具：破損、損傷	C		
	<input type="checkbox"/> エコ改修					
	<input type="checkbox"/> トイレ改修					
	<input type="checkbox"/> 法令適合					
	<input type="checkbox"/> 校内LAN					
	<input type="checkbox"/> 空調設置					
	<input type="checkbox"/> 障害児等対策				R元	5年教室・職員室窓ブラインド設置工事
	<input type="checkbox"/> 防犯対策				R元	普通教室空調設置工事(特別支援学級・ポランティアルーム・普通教室)
4 電気設備	<input type="checkbox"/> 分電盤改修			B		
	<input type="checkbox"/> 配線等の敷設工事					
	<input type="checkbox"/> 昇降設備保守点検					
	<input type="checkbox"/> その他、電気設備改修工事					
	<input type="checkbox"/> その他、機械設備改修工事					
5 機械設備	<input type="checkbox"/> 給水配管改修	R元	図書室不凍栓修理、中校舎2階不凍栓修理	B		
	<input type="checkbox"/> 排水配管改修	H28	もみの木・もみ学習室ゲートバルブ取替			
	<input type="checkbox"/> 消防設備の点検					
	<input type="checkbox"/> その他、機械設備改修工事					

特記事項(改修工事内容や12条点検、消防点検など、各種点検等による指摘事項が有れば、該当部位と指摘内容を記載)
 【ヒアリング】図書室前廊下で雨漏り。栗の子組教室前廊下で雨漏り。
 【特記事項】各教室共通 壁(窓下)：ひび割れ、仕上材剥れ、エフロッセンス 壁：ひび割れ(複数)
 R元 普通教室空調設置工事監理、特別教室・管理諸室空調設置工事設計、特別教室・管理諸室空調設置工事監理、小学校トイレ改修工
 事設計 H30 普通教室空調設置工事設計
 H29 養護学級前廊下雨漏り改修工事 H27 昇降口前外階段改修工事設計監理 H21 耐震診断

現況劣化度
34 / 100点

◆図表 3-10-1 現況写真（一部抜粋）

写 真 台 帳

4. 両小野小学校



建物名	普通教室棟	外観：現況
写真No.	1	
部位	外観	
評価		



建物名	普通教室棟	外観：現況
写真No.	2	
部位	外観	
評価		



建物名	普通教室棟	外観：現況
写真No.	3	
部位	外観	
評価		



建物名	普通教室棟	外観：現況
写真No.	4	
部位	外観	
評価		



建物名	普通教室棟	外観：現況
写真No.	5	
部位	外観	
評価		

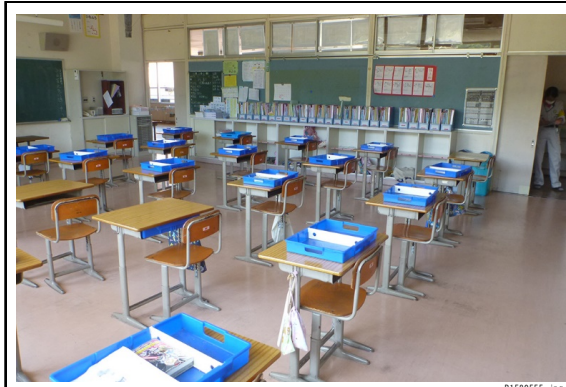


建物名	普通教室棟	外観：現況
写真No.	6	
部位	外観	
評価		

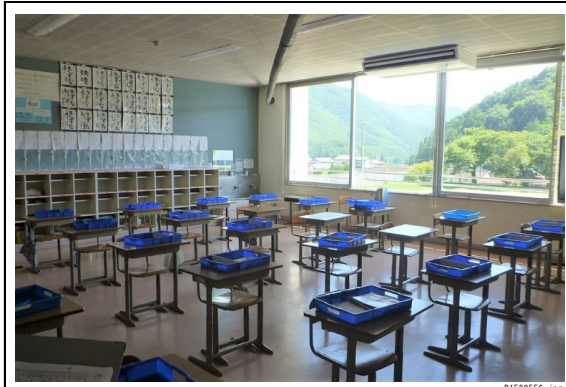
◆図表 3-10-2 現況写真（一部抜粋）

写 真 台 帳

4. 両小野小学校



建物名	普通教室棟	6年教室：現況
写真No.	83	
部位	内部仕上	
評価	C	



建物名	普通教室棟	6年教室：現況
写真No.	84	
部位	内部仕上	
評価	C	



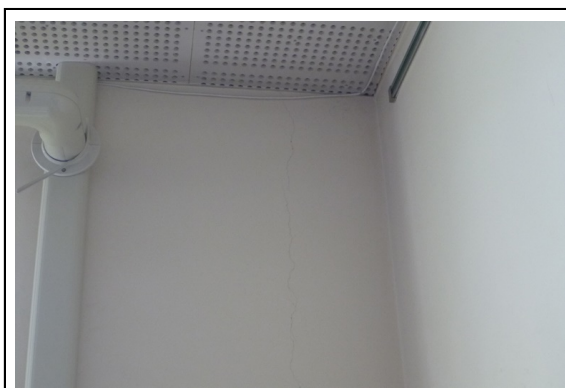
建物名	普通教室棟	6年教室 天井：現況
写真No.	85	
部位	内部仕上	
評価	C	



建物名	普通教室棟	6年教室 床：汚れ
写真No.	86	
部位	内部仕上	
評価	C	



建物名	普通教室棟	6年教室 壁：ひび割れ、仕上材剥れ、 エフロレッセンス (各教室 壁：同様の状況)
写真No.	87	
部位	内部仕上	
評価	C	



建物名	普通教室棟	6年教室 壁：ひび割れ(複数あり) (各教室 壁：同様の状況)
写真No.	88	
部位	内部仕上	
評価	C	

(2) 劣化状況の評価方法

建物の劣化状況の調査結果を分析・評価し、長寿命化に必要なコストと保全の優先順位を設定するため、以下のように評価を行い、総合劣化度を算出しました。

① 評価基準

評価基準をA～Dの4段階としました。(図表 3-11)

◆図表 3-11 評価基準

評価	劣化状況の評価基準	評価点
A評価	概ね良好	10点
B評価	局所、部分的に劣化が見られるが、安全上、機能上、問題なし	40点
C評価	随所、広範囲に劣化が見られ、安全上、機能上、低下の兆しが見られる	70点
D評価	随所、広範囲に著しい劣化が見られ、安全上、機能上、問題があり、早急に対応する必要がある	100点

② 部位の重要度係数

部位により建物の安全性もしくは機能性に及ぼす影響が異なることから、財団法人建築保全センター発行の「ライフサイクルコストデータベース (H17版)」の分類を参考とし、部位の重要度係数を以下の3段階としました。(図表 3-12)

◆図表 3-12 部位の重要度係数

部位の重要度の判断基準		重要度係数
大	特に安全性に関わる部位(躯体、屋上、外壁)	1.00
中	計画保全が望ましい部位(外部開口部、電気、機械)	0.50
小	事後保全で良い部位(内部、給排水、その他外部ほか)	0.25

③ 現況劣化度

$$\text{現況劣化度} = \frac{\text{総和 (各部の劣化状況評価点} \times \text{部位の重要度係数)}}{\text{評価の対象部位数}}$$

④ 総合劣化度

$$\text{総合劣化度} = \text{現況劣化度} + \text{築年数}$$

※但し、当該建物に大規模改修履歴がある場合は、15点減じています。

点数が大きいほど、建物の劣化が進んでいることとなります。

4 構造躯体の健全性の把握

長寿命化計画策定段階においては、今後の維持・更新コストの試算における区分を「試算上の区分」として設定しています。構造や耐震基準、履歴調査、現地調査等の結果を基に、長寿命化改修に適さない可能性のある建物を簡易に選別しています。（図表 3-13）

工事实施段階においては、躯体の詳細な調査結果（コンクリート圧縮強度等）、及び施設の重要性や利用状況等の観点から総合的に検討した上で「長寿命」または「改築」を最終的に判断していくことになります。

◆図表 3-13 試算上の区分

構造	耐震基準	耐震補強等	試算上の区分	備考
RC SRC S CB	新	—	長寿命	
	旧	済み	長寿命	※1
		未	要調査、改築	耐震補強又は使用不可
W	新	—	改築	
	旧	—		

※1 RC造の場合は、コンクリート圧縮強度 13.5N/mm²以下のもの、S造の場合は、おおむね 40 年以上で腐食や劣化の進行が著しいもの、またはこれらの状況が不明な場合は「要調査」となる。

■構造

- RC : 鉄筋コンクリート造
- SRC : 鉄骨鉄筋コンクリート造
- S : 鉄骨造
- CB : コンクリートブロック造
- W : 木造（軽量鉄骨造、小規模建物等含む）

■耐震基準

新耐震基準：昭和 56（1981）年 6 月 1 日以降の建築確認において適用されている基準をいう。

旧耐震基準：その前日まで適用されていた基準をいう。

5 劣化状況の現地調査結果

学校施設の劣化状況の現地調査結果を基に分析・評価を行い、劣化度を算出し、今後の長寿命化計画における優先順位付け等の基礎資料とします。

結果は図表 3-14 建物状況一覧表のとおりです。早急に対応する必要があるD評価と判定された建物は4棟で、管理棟・特別教室棟の屋根・屋上、普通教室棟の外壁、屋内運動場（小体育館器具室・廊下）の外壁と内部仕上、音楽室の屋根・屋上、外壁でした。また、広範囲に劣化のC評価判定の部位がある建物は、前述の建物以外に4棟となっています。

◆図表 3-14 建物状況一覧表

: 築50年以上
 : 築30年以上

※1 長寿命:長寿命化改修対象
 要調査:耐震診断・耐震補強対象
 改築:建替え対象

A

 :概ね良好

B

 :部分的に劣化

C

 :広範囲に劣化

D

 :早急に対応する必要がある

基準 2020

建物基本情報											構造躯体の健全性					劣化状況評価						大規模改修年度等	
通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	棟番号	構造	階数	延床面積(m ²)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定		屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	現況劣化度		総合劣化度
								西暦	和暦		基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度(N/mm ²)								
1	0914	両小野小学校	管理棟・特別教室棟	001-1	RC	2	1,319	1979	S54	41	旧	済	-	H21	25	長寿命	D	C	C	B	C	49	90
2	0914	両小野小学校	普通教室棟	002	RC	1	686	1979	S54	41	旧	済	-	H21	25	長寿命	B	D	C	B	B	40	81
3	0914	両小野小学校	総合学習センター	003	RC	1	281	1979	S54	41	旧	済	-	H21	25	長寿命	B	B	B	B	-	29	70
4	0914	両小野小学校	普通教室棟	004	RC	2	2,454	1980	S55	40	旧	済	-	H21	25	長寿命	B	C	C	B	B	34	74
5	0914	両小野小学校	屋内運動場(大体育館、資料室・廊下)	001-2, 005	RC	地上1 地下1	1,060	1980	S55	40	旧	済	済	H23		長寿命	B	B	B	B	B	26	66
6	0914	両小野小学校	屋内運動場(小体育館)	007-1	RC	1	195	1962	S37	58	旧					要調査	B	B	C	C	-	34	92
7	0914	両小野小学校	屋内運動場(小体育館器具室・廊下)	007-2	W	1	79	1962	S37	58	旧					改築	B	D	D	B	-	47	105
8	0914	両小野小学校	音楽室	008	W	1	170	1962	S37	58	旧					改築	D	D	C	B	B	52	110
9	0914	両小野小学校	プール付属室	009	S	1	72	1980	S55	40	旧					要調査	C	B	C	C	B	37	77
10	0914	両小野小学校	給食室	010	S	1	216	1992	H4	28	新					長寿命	B	C	B	B	B	32	60
A		両小野小学校	プール		FRP		375.00m ² 75.00m ²	1980	S55	40													

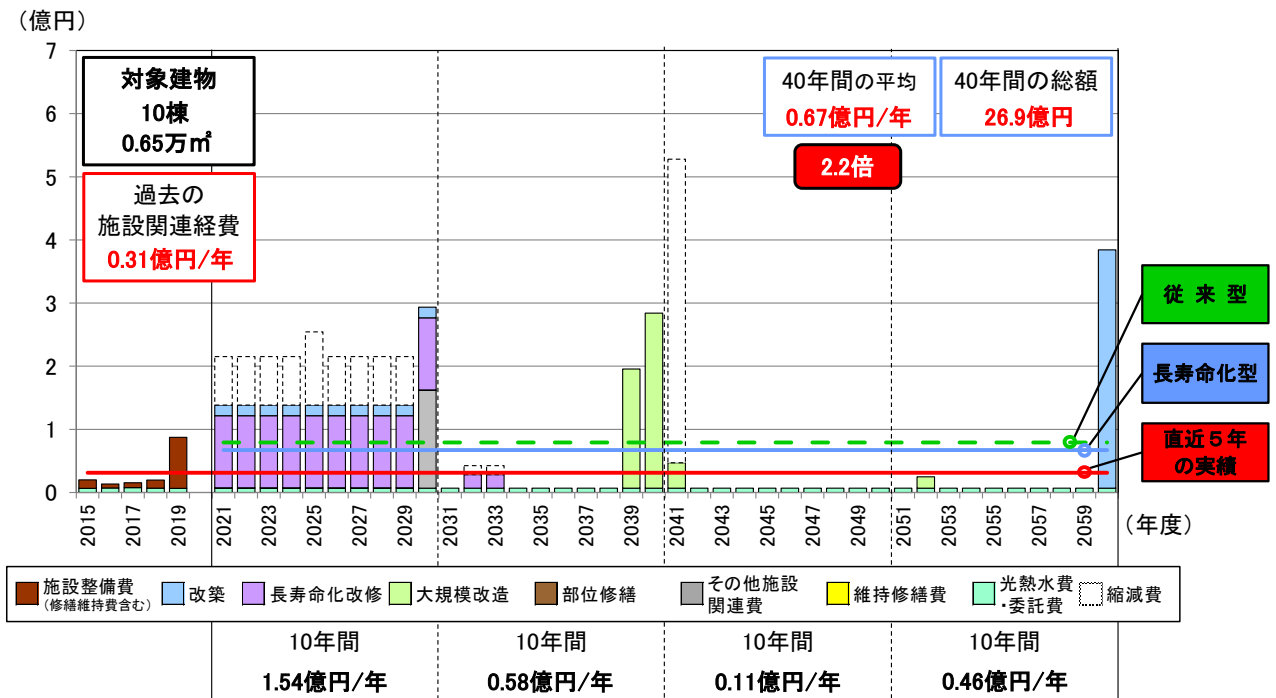
6 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）

学校施設の改築による費用集中を避け、将来の費用の縮減をしていくため、長寿命化改修等により、改築の更新周期を 80 年とした場合、今後 40 年間の維持・更新コストは総額約 26.9 億円（0.67 億円/年）となり、従来の改築中心の場合（図表 3-8）の 31.7 億円（0.79 億円/年）より総額 4.8 億円（0.12 億円/年）の減額となり、約 15%の縮減と試算されます。

しかし、直近 5 年間の施設関連経費 0.31 億円/年の 2.2 倍のコストが必要となるため、長寿命化対策だけでは、コスト縮減は厳しい状況が予想されます。

今後、将来児童数の減少等を考慮し、最適な手法で実行可能な計画となるよう検討を行う必要があります。

◆図表 3-15 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）



コスト試算条件(長寿命化型)

- 基準年度: 令和 2(2020)年度(試算期間: 基準年の翌年度から 40 年間)
- 改築: 更新周期 改築、要調査 40 年 長寿命 80 年
工事期間 2 年 実施年数より古い建物の改修を 10 年以内に実施
- 大規模改造: 実施年数 20 年周期
(ただし、改築、長寿命化改修の前後 10 年間に重なる場合は実施しない)
- 部位修繕: D評価 今後 5 年以内に部位修繕 C評価 今後 10 年以内に部位修繕を実施
(ただし、改築、長寿命化改修、大規模改造を今後 10 年以内に実施する場合を除く)
A評価 今後 10 年以内の長寿命化改修から部位修繕相当額を差し引く
- 単価設定: 改築単価 330,000 円/㎡
(総務省「公共施設等更新費用試算ソフト」分類別更新単価 学校教育系施設)
長寿命化改修 改築単価の 60% 大規模改造 改築単価の 25%
- プール: 更新周期 改築 50 年 長寿命化改修 25 年 大規模改修 12 年
改築単価 プール建設費を現在価格に換算
長寿命化改修 改築単価の 60% 大規模改修 改築単価の 25%
「その他施設関連費」に計上

第4章 学校施設整備の基本的な方針等

1 学校施設の規模・配置計画等の方針

両小野小学校と両小野中学校は、平成23(2011)年度から、小・中一貫教育「両小野学園」となり、従来の小・中学校の施設などをそのまま活用する「施設分離型」を採用し、児童・生徒の交流や、小・中学校教員の交流が積極的に行われています。

平成26(2014)年度からは、保育園に入園する3歳から中学校卒業までの12年間を見通して、地域で一体的な教育を行うため、地区内の保育園を含めた「保小中一貫教育」に進化し、さらに、平成27(2015)年度からは、学校運営に地域が参画するコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を始めました。

そうしたことから、当面の間、両小野小学校は現在の配置を維持していくこととします。

しかしながら、将来的には、児童数の減少等を踏まえ、学校施設の規模や適性配置については、地域の実情に応じて、余裕教室など空きスペースの有効活用、または不要となった一部校舎の用途廃止や減築など様々な方向の検討を行っていくものとします。

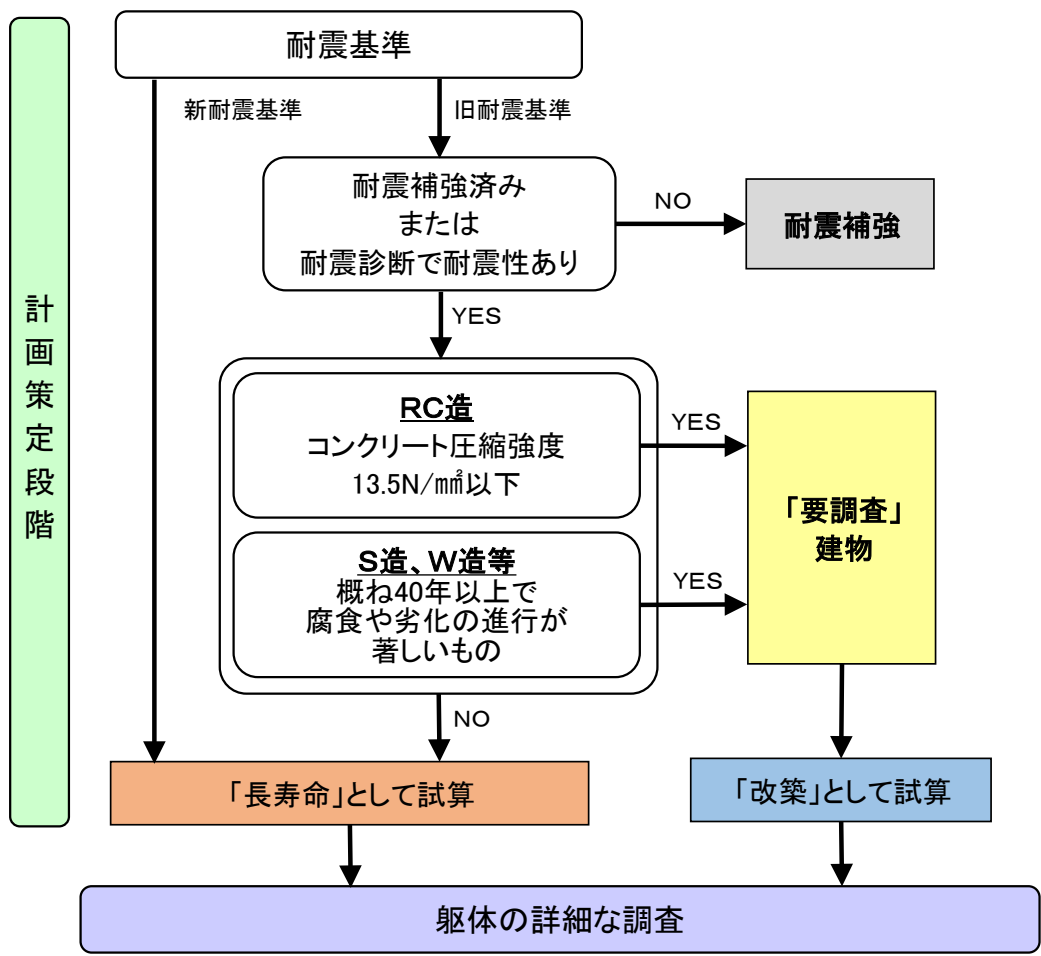
2 改修等の基本的な方針

文部科学省では、学校施設の長寿命化のメリットとして、次の3つを掲げています。

- ① 改築と比較して構造体（柱や梁）の工事が大幅に減少するため、工事費用の縮減や工期の短縮を行うことができる。
- ② 長寿命化改修への転換により、限られた予算でより多くの施設の安全性を確保しつつ、機能の向上を図ることができ、子どもたちにとって快適で居心地の良い学習・生活の場を確保することができる。
- ③ 改築と比べて廃棄物排出量や二酸化炭素発生量が減少し、大幅に環境負荷が低減する。

両小野小学校においても詳細診断の結果、長寿命化改修が可能な学校施設は長寿命化することとしますが、実際の長寿命化・改築等の判断は、児童数の将来見通し、詳細診断の結果、財政状況や各種補助制度を総合的に勘案して決定するものとします。

◆図表 4-1 長寿命化判定フロー



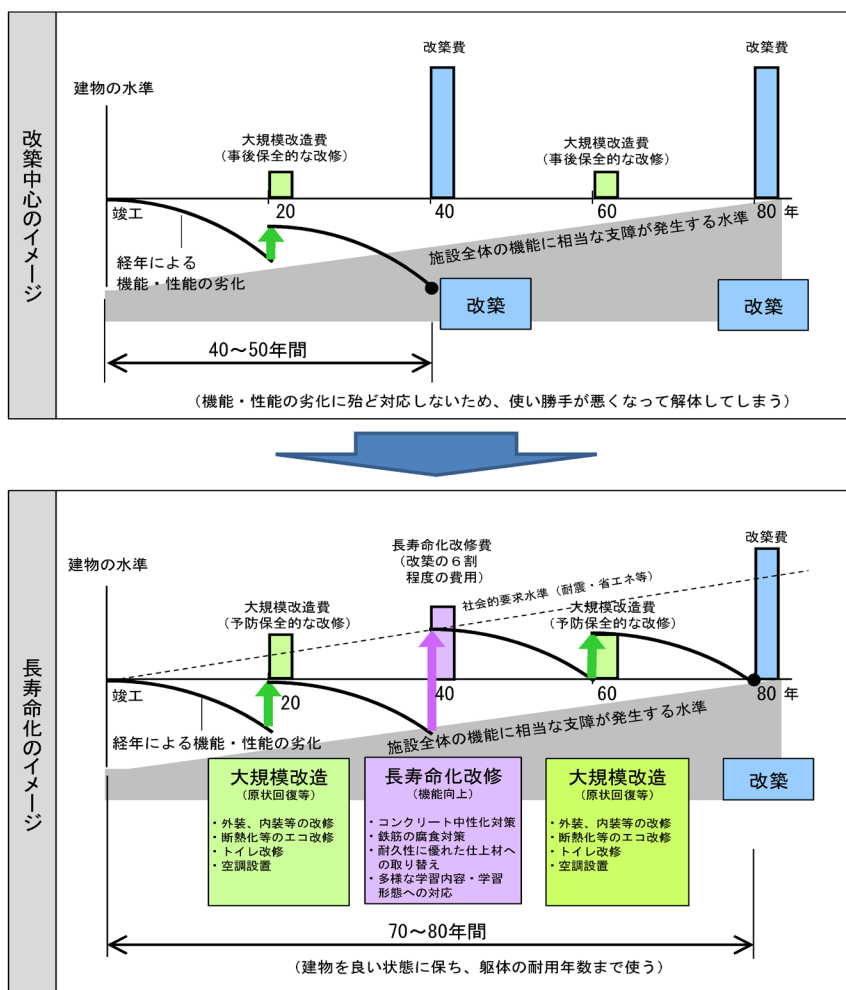
3 長寿命化の方針

学校施設を常に健全な状態に保ち、安全安心で快適な教育環境を維持するためには、施設の定期的な点検の実施や老朽化や機能の低下が生じる前に予防的な修繕を行うことで、従来の事後保全での整備と比較して施設を長く使用することができるため、「学校施設の長寿命化」を図る上で「計画保全」の考え方が重要になります。

学校施設整備について、改築を中心もしくは事後保全の維持管理（改築年数 40 年）から、築 20 年程度経過後に機能回復のための予防保全的な改修等、中間期（40 年など）に長寿命化改修、その後も建物の部位ごとの更新周期を勘案し、約 20 年スパンで予防保全的な改修を計画的に行うなど、計画保全による建物の長寿命化（改築年数 80 年）に切り替え、部位改修を併用した整備を行います。

なお、長寿命化または改築工事は、文部科学省の各種補助制度を可能な限り活用して、財政負担の軽減を図るとともに、現在から将来の学校の使われ方、考え方を考慮して効率的・効果的な工事を行います。

◆図表 4-2 改築中心から長寿命化への転換のイメージ
 （「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」平成 27(2015)年 4 月文部科学省）



4 目標耐用年数の設定

目標耐用年数は、日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」が提案する算定式や施設使用の限界年数の考え方を参考に、図表 4-3 のとおり設定します。

なお、学校施設の長寿命化計画策定に係る手引（平成 27（2015）年 4 月文部科学省）では、「適正な維持管理がなされ、コンクリート及び鉄筋の強度が確保される場合には 70～80 年程度、さらに、技術的には 100 年以上持たせるような長寿命化も可能である。」とされています。

◆図表 4-3 構造に応じた目標耐用年数

目標耐用年数		
鉄筋コンクリート造 鉄骨・鉄筋コンクリート造	鉄骨・ブロック造	木造(小規模建物)
80年	60年	40年

◆図表 4-4 建築全体の望ましい目標耐用年数の級

用途	鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造		鉄骨造			ブロック造 れんが造	木造
	高品質の場合	普通品質の場合	重量鉄骨		軽量鉄骨		
			高品質の場合	普通品質の場合			
学校・庁舎	Y。100以上	Y。60以上	Y。100以上	Y。60以上	Y。40以上	Y。60以上	Y。60以上
住宅・事務所 ・病院	Y。100以上	Y。60以上	Y。100以上	Y。60以上	Y。40以上	Y。60以上	Y。40以上
店舗・旅館 ・ホテル	Y。100以上	Y。60以上	Y。100以上	Y。60以上	Y。40以上	Y。60以上	Y。40以上
工場	Y。40以上	Y。25以上	Y。40以上	Y。25以上	Y。25以上	Y。25以上	Y。25以上

建築物の耐久計画に関する考え方((社)日本建築学会)より

◆図表 4-5 目標耐用年数の級の区分の例

級(Y。)	目標耐用年数		
	代表値	範囲	下限値
Y。150	150年	120～200年	120年
Y。100	100年	80～120年	80年
Y。60	60年	50～80年	50年
Y。40	40年	30～50年	30年
Y。25	25年	20～30年	20年
Y。15	15年	12～20年	12年
Y。10	10年	8～12年	8年
Y。6	6年	5～8年	5年
Y。3	3年	2～5年	2年

建築物の耐久計画に関する考え方((社)日本建築学会)より

5 更新周期

建物を構成する主要な部位や材質に応じた耐用年数の目安があります。建築物の長寿命化を図るため、更新周期（年数）は、個別の仕様や材料により異なるため、下表に示すとおり部位に応じて一定の幅を持たせる方針とします。

緊急性や重要性等を考慮し、施設本体の長寿命化修繕改修を優先的に実施します。

また、比較的大規模な修繕工事においては、その工事と関連した部位を同時に措置することが合理的となり、修繕費用の低減を図ることが可能となります。

◆図表 4-6 改修周期と改修内容の例

築年数	事業区分	工事内容
0年	新築(改築)	建物の新設
20年	大規模改造(原状回復等)	内外装・設備の更新
40～45年	長寿命化改修(機能向上)	内外装・設備の更新 必要に応じて、躯体の改質工事
60～65年	大規模改造(原状回復等)	内外装・設備の更新

◆図表 4-7 主な改修工事と関連部位・機器等の例

部位・設備等	主な改修工事	同時に措置した方が良い 部位・設備等の例	更新・改修 周期の目安
外 壁	仕上げ改修(塗装、吹付、タイル補修等)	シーリング、外部建具、笠木、樋、断熱材	15～30年 仕上げ材による
	クラック補修、浮き補修	シーリング、外部建具、笠木	10～15年
	建具改修(サッシ、カーテンウォール等)	シーリング	約40年
屋 根	防水改修	排水溝(ルーフトレン)、笠木、屋上手すり、設備架台、断熱材	20～30年
電 気 設 備	受変電設備改修	分電盤、変圧機、コンデンサ、幹線	25～30年
空 調 設 備	冷暖房設備(ファンコイル、空調機)改修	ポンプ、冷却塔、配管等、屋上防水	15～20年
	熱源改修	配管等	15～20年
給排水衛生設備	給排水設備改修	ポンプ、受水槽配管(冷温水管)等	15～30年

公共建築の部位・設備の特性等を踏まえた中長期修繕計画策定及び運用のためのマニュアル(平成17年6月)より抜粋

※ その他、ストックに対する主な工事として、耐震性能向上、環境性能向上、バリアフリー化等を目的とした改修を行う場合も想定されますが、劣化や機能停止への対処として行われる性質のものではないため、本整理の対象外としました。ただし、施設の実情等に応じて、これらの改修工事と修繕を同時に行うことも検討する必要があります。

6 今後の方向性の定義

ソフト（建物の機能）とハード（建物）の両面から、学校施設について今後の方向性を検討し、下表のとおり整理します。

◆図表 4-8 今後の方向性の定義表

区分	方向性	内容
機能	継続	機能を現状のまま継続する
	集約	同一用途の施設を一つの建物に集める
	統合	別々の用途を有する施設を一つの建物に集める
	移転	集約・統合・建物移転により、機能を移転させる
	転用	現用途を廃止し、他用途への転用を行う
	廃止	施設(建物)の現用途の廃止を行う
	継続検討	将来の施設の整備方針を継続検討する
建物	継続	建物を現状のまま継続する
	譲渡	建物を「無償」または「有償」で民間に譲渡する
	貸付	建物を「無償」または「有償」で民間に貸付ける
	改築	建物を建替える
	集約	同一用途の施設を一つの建物に集める
	複合	別々の用途の施設を一つの建物に集める
	移転	移転して建替える
	減築	建物を改築する際に床面積を減らすこと
	取壊し	用途廃止した施設の建物を解体する
	継続検討	将来の建物の整備方針を継続検討する

第5章 基本的な方針を踏まえた施設整備の水準等

1 改修等の整備水準

文部科学省は「学校施設の長寿命化計画策定の手引」において、「改修（特に長寿命化改修）の実施に当たっては、単に数十年前の建築時の状態に戻すのではなく、構造体の長寿命化やライフラインの更新等により建物の耐久性を高めるとともに、省エネルギー化や多様な学習形態による活動が可能となる環境の提供など、現代の社会的な要請に応じるための改修を行うことが重要である。」としています。

長寿命化改修において配慮すべき性能として、安全安心に学べる教育環境とし、少子高齢化や小学校の地域としての役割（避難所、地域のコミュニティの場等）を踏まえ、学校生活の場として必要な環境の確保・維持や、教育のICT化、省エネルギー化、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、防災・防犯等の社会的要求に対応した機能付加など、ニーズや費用等を勘案しながら整備を進めていきます。

改修等の整備基準検討表を図表 5-1 に示します。

◆図表 5-1 改修等の整備水準検討表

		改修案 (内部改修と同時に実施し機能向上を図る改修)				
		改修メニュー(整備レベル)				既存の整備レベル
部位		高			低	
外部仕上げ	屋根・屋上	ステンレス製屋根葺き替え	ガルバリウム鋼板製屋根葺き替え	カラー鉄板屋根葺き替え	屋根塗装	長尺カラー鉄板葺き
	外壁	外断熱パネル	外壁塗装(光触媒フッ素樹脂塗材) 内断熱	外壁塗装(防水型複層塗材)	断熱なし	コンクリート打放し+吹付、 タイル張
	外部開口部(校舎)	サッシ交換(Low-e複層ガラス)	サッシ交換(カバー・はつり工法)(複層ガラス等)	既存サッシの強化ガラス交換		アルミサッシ(単板ガラス) スチールドア
	外部開口部(体育館)	サッシ交換(Low-e複層ガラス)	サッシ交換(カバー・はつり工法)(複層ガラス等)	既存サッシの強化ガラス交換		アルミサッシ(単板ガラス) スチールドア
内部仕上げ	内部仕上げ(教室等)	内装の全面撤去・更新(木質化)	床、壁、天井撤去・更新 黒板・ロッカー等更新	床補修 壁、天井塗替え	黒板更新	床:ビニールシート張 壁:塗装、ビニールクロス張 天井:ボード張
	トイレ	内装の全面撤去・更新 ドライ化 洗浄機能付き便座	内装の全面撤去・更新 洗浄機能付き便座(一部)	床補修 壁、天井塗替え	洋式化	床:ドライ(ビニールシート張) 洋式、 一部洗浄機能付き
省エネ化	電気設備	LED照明に交換(人感センサー、照度センサー付)	LED照明に交換	蛍光灯(Hf)照明更新		一部LED照明
	給排水衛生設備	節水型便器、小便器(センサー付)	節水型便器			一般便器、小便器(センサー付)
	空調設備	ヒートポンプ式マルチエアコン 全熱交換器(CO2センサー付)	中央方式 全熱交換器	エアコン 換気扇	FF式ヒーター	エアコン、扇風機 煙突式石油ストーブ
バリアフリー	建築	スロープ、手すり	案内板、カウンター	誘導ブロック	車椅子対応駐車場	スロープなし
	トイレ	多目的トイレ	車椅子用トイレ	校庭開放用		車椅子用トイレ
	昇降機	車椅子対応エレベーター	乗用エレベーター			昇降機なし
防災・防犯	建築	非構造部の耐震化	構造部の耐震化			構造部の耐震化
	自家発電設備	非常用自家発電設備	発電機(ポータブル)			非常用発電機(ポータブル)
	インターホン	モニター付き	管理室、教室			呼び鈴(インターホンなし)
	防犯カメラ	防犯カメラ	防犯カメラ(正面玄関)			警備システム(防犯カメラ)
	防災設備	災害時飲料用受水槽ステンレス製	災害時飲料用受水槽FRP製			受水槽なし

2 維持管理の項目・手法等

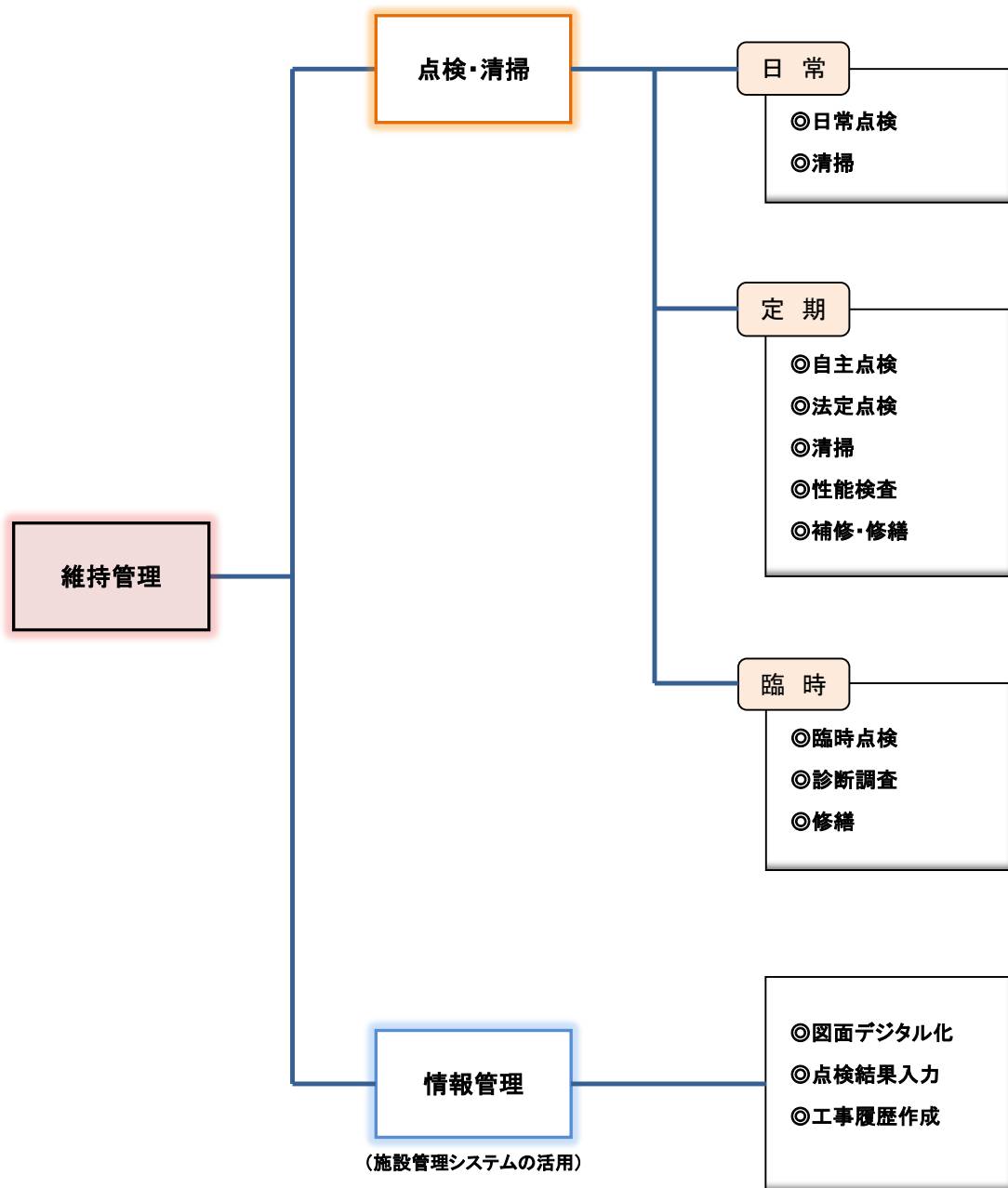
長寿命化を図るためには、定期的に改修工事を行うだけでなく、日常的、定期的に施設の点検や清掃、情報管理を行う必要があります。

日常的、定期的に維持管理を行うことで、建物の劣化状況を詳細に把握でき、より早急に異常に気付くことができるため、施設に応じた維持、改修内容や時期を計画に反映することができます。

◆図表 5-2 維持管理の項目・手法例

維持管理分類	項目	内容	頻度	主な担当者
日常的な点検	日常点検	機器及び設備について、異常の有無、兆候を発見する。	毎日	学校
清掃	清掃	快適な環境を維持しながら建物の仕上材や機器の寿命を延ばすため、塵や汚れを除去する。	各点検に合わせて随時実施	学校、専門業者
定期的な点検	自主点検	機器及び設備の破損、腐食状況を把握し、修理・修繕等の保全計画を立てる。	1週、1ヶ月、半年、1年等周期を設定	学校、教育委員会
	法定点検	自主点検では確認できない箇所や、法的に定められた箇所に関して、専門業者により点検する。		専門業者
臨時的な点検	臨時点検	日常、定期点検以外に行う臨時点検。	故障警報、気象情報等により、随時実施	学校、教育委員会、専門業者
情報管理	図面デジタル化	学校施設の図面をデジタル化・管理し、点検や現状把握の際に活用する。	随時	教育委員会
	点検結果入力	点検・工事の履歴を作成し、各学校施設の現状把握や計画への反映に活用する。	各点検に合わせて随時実施	教育委員会
	工事履歴作成		改修、修繕後に実施	教育委員会

◆図表 5-3 維持管理の項目



第6章 長寿命化の実施計画

1 長寿命化の実施計画（中・長期計画）

中・長期計画は、学校施設等の実状と課題を踏まえ、長寿命化、改修等における基本方針をもとに今後の対策の方向性や改修・改築の時期、及び事業費を年度計画に落とし込んだものです。

学校施設の老朽化、児童数の減少・少子高齢化による厳しい財政状況などにより、現状のまま維持していくことは困難な状況です。

本当に必要か、持続可能かを長期的な視点をもって見直すことにより、児童及び職員に安全安心で質の高い教育環境を提供するとともに、持続可能な財政運営を目指していきます。

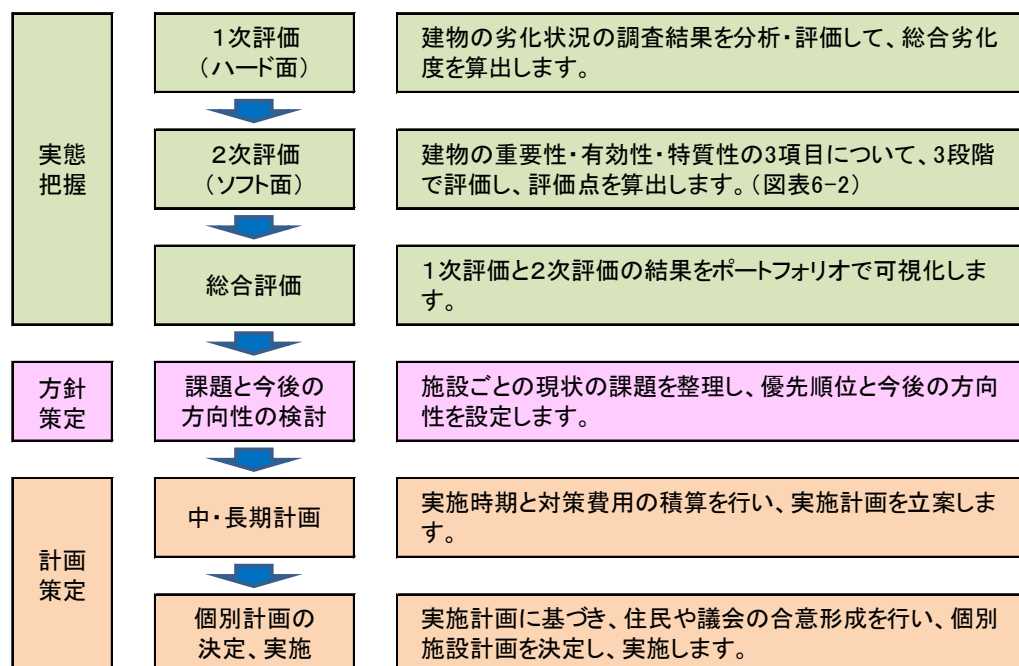
なお、本計画は5年ごとに計画の見直しを図り、時点修正を行います。

2 優先順位の考え方

図表 6-1 のフローにより優先順位を検討しますが、主な視点は次のとおりです。

- ① 安全性……緊急性、耐震性、長寿命化、障害の排除
- ② 機能性……原状回復、防災・防犯、省エネ
- ③ 経済性……ライフサイクルコストの低減
- ④ 代替性……他に代替えないもの
- ⑤ 社会性……社会的ニーズ（洋式トイレ、LED、空調、ユニバーサルデザインなど）

◆図表 6-1 優先順位判断と計画策定フロー



◆図表 6-2 2次評価（ソフト面）の評価方法

2次評価は、重要性、有効性、特質性の3つの区分において、各評価項目に該当する項目の数によって、「3」、「2」、「1」の3段階で評価します。

各区分には、重みづけの係数を設定し、評価点と係数を乗じたものを合計して評価点を算出します。

区分	評価	係数	評価項目	
重要性	3:該当項目4~5 2:該当項目2~3 1:該当項目0~1	1.00	1	法律等により設置が義務付けられている。
			2	この施設が存在しなければ、多くの住民の日常生活に支障が出る。
			3	施策を実現する上で必要不可欠な施設である。
			4	設置目的の社会的要請が、設置当時と同様にある(ほとんど低下していない)。
			5	避難所に指定されている等、災害時に必要な施設である。
有効性	3:該当項目4~5 2:該当項目2~3 1:該当項目0~1	0.75	6	設置目的と現在の利用形態が合致している。
			7	施設設置当時から、稼働率・利用者数が50%以上減少していない。
			8	収入が減少傾向にない。(収入のない施設は非該当)
			9	投票所等にも幅広く活用可能で汎用性の高い施設。
特質性	3:該当項目4~6 2:該当項目2~3 1:該当項目0~1	0.50	10	公共性が高い(一部の個人・団体が使っているのではない)。
			11	建物自体に歴史的、文化的、象徴的価値がある。
			12	他の建物で代替えができない(他の建物では設置目的が達成できない)。
			13	近隣の自治体との広域的な連携ができない。
			14	浸水想定区域・土砂災害警戒区域内には設置されていない。
			15	施設整備に関し、国県補助金、記載の償還などの制約がある。
16	多くの住民から設置継続を要望されている。			

区分の重みづけ係数					
重要性	1.00	有効性	0.75	特質性	0.50

2次評価点＝総和(各区分の評価点×重みづけの係数)

3 学校施設の実施計画

建物ごとの実施計画表の記載内容について説明します。

① 基礎調査表

建物の基本情報と利用状況等の現状、劣化調査結果（1次評価）とソフト面の評価（2次評価）の結果を、建物ごとに整理しています。

② 総合評価

1次評価と2次評価の点数により、ポートフォリオで表したものです。

1次評価点、2次評価点がともに高い建物は、最も優先順位が高いと判断します。

③ 中・長期計画

建物ごとの残存耐用年数、直近の実施計画、適正配置の検討結果、長寿命化する建物は、20年周期の改修時期、費用を推計しています。

改築単価は、総務省 公共施設等更新費用試算ソフト「分類別更新単価」より設定しています。なお、事業費をすでに個別に算出している場合は、その事業費を費用計上しません。

費用の推計には、文部科学省提供の「エクセルソフト」を使用し、今後、同規模で更新した場合の必要コストを試算しています。

◆図表 6-3 分類別更新・改修単価表

分類別	改築	長寿命化改修	大規模改造
学校教育系施設	33 万円/㎡	19.8 万円/㎡	8.25 万円/㎡

④ 主な課題と今後の方向性

1次評価、2次評価の結果、配置及び現段階で把握している現状の課題を建物ごとに記載しています。

学校施設整備の基本的な方針等を踏まえた当該学校施設の規模・配置計画等の方針、改修等の整備水準、今後の方向性の検討結果を記載しています。

今後、この計画をもとに住民や議会での合意形成を図りながら実施していくこととなります。具体的な実施計画があるものについては、その旨を記載しています。

なお、この計画は、児童数の変化、社会経済情勢、国の補助制度などの動向により、柔軟に見直すこととします。

両小野小学校

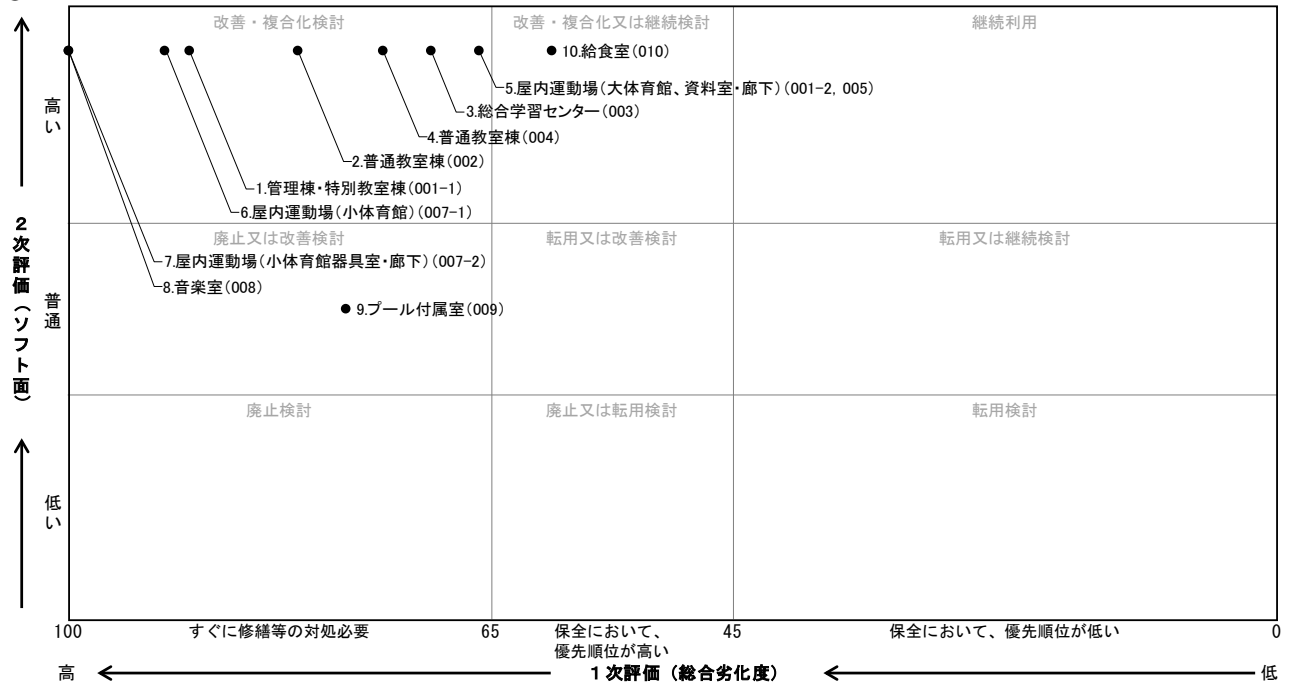
2次評価における重みづけ係数					
重要性	1.00	有効性	0.75	特質性	0.50

①基礎調査表

番号	施設名	建物名	建物基本情報							現 状							劣化調査結果 (1次評価)			
			棟 番号	所在地	所管課	中分類	構造	延床 面積 (㎡)	建築 年度	築年 数	管理 形態	設置目的、 機能、役割	避難 所指定	ソフト面の評価 (2次評価)			施設整備状況	試算上の 区分 (※1)	躯体以外 の総合 劣化度	
														重要 性	有効 性	特質 性				評価
1	両小野小学校	管理棟・特別 教室棟	001-1	小野1164	教育委員会	学校	RC	1,319.00	S54 (1979)	41	直営	学校教育法の規定により設置、義務教育	無	3	3	3	6.75	R元 特別教室・管理諸室空調設置、家庭科調理室温水器設置、電気設備工事 H29 消防設備改修工事	長寿命	90
2	両小野小学校	普通教室棟	002	小野1164	教育委員会	学校	RC	686.00	S54 (1979)	41	直営	学校教育法の規定により設置、義務教育	無	3	3	3	6.75	R元 普通教室空調設置、特別教室・管理諸室空調設置、教室窓修繕工事 H30 1・2年生トイレ改修工事 H28 1・2年廊下雨漏り改修工事	長寿命	81
3	両小野小学校	総合学習セ ンター	003	小野1164	教育委員会	学校	RC	281.00	S54 (1979)	41	直営	学校教育法の規定により設置、義務教育	無	3	3	3	6.75		長寿命	70
4	両小野小学校	普通教室棟	004	小野1164	教育委員会	学校	RC	2,454.00	S55 (1980)	40	直営	学校教育法の規定により設置、義務教育	無	3	3	3	6.75	R元 普通教室空調設置、特別教室・管理諸室空調設置、教室窓修繕工事 H29 養護学級廊下雨漏り改修 H24 児童昇降口屋根修繕	長寿命	74
5	両小野小学校	屋内運動場(大 体育館、資料 室・廊下)	001- 2、 005	小野1164	教育委員会	学校	RC	1,060.00	S55 (1980)	40	直営	学校教育法の規定により設置、義務教育	有	3	3	3	6.75	H20 エアコン設置(保健室) H24 体育館耐震補強 H23 体育館天井改修	長寿命	66
6	両小野小学校	屋内運動場 (小体育館)	007-1	小野1164	教育委員会	学校	RC	195.00	S37 (1962)	58	直営	学校教育法の規定により設置、義務教育	無	3	3	3	6.75		要調査	92
7	両小野小学校	屋内運動場 (小体育館器 具室・廊下)	007-2	小野1164	教育委員会	学校	W	79.00	S37 (1962)	58	直営	学校教育法の規定により設置、義務教育	無	3	3	3	6.75		改築	105
8	両小野小学校	音楽室	008	小野1164	教育委員会	学校	W	170.00	S37 (1962)	58	直営	学校教育法の規定により設置、義務教育	無	3	3	3	6.75	R元 特別教室・管理諸室空調設置工事	改築	110
9	両小野小学校	プール附属 室	009	小野1164	教育委員会	学校	S	72.00	S55 (1980)	40	直営	プール附属室	無	2	2	2	4.50	H28 プールろ過器修理、ろ過材カートリッジ交換	要調査	77
10	両小野小学校	給食室	010	小野1164	教育委員会	学校	S	216.00	H4 (1992)	28	直営	給食室	無	3	3	3	6.75	R元 特別教室・管理諸室空調設置、給食事務室・休憩室空調設置工事 H29 給食室空調設備設置工事 H27 貯湯式低圧型温水ボイラー設置	長寿命	60
A	両小野小学校	プール		小野1164	教育委員会	学校	FRP	375.00㎡ 75.00㎡	S55 (1980)	40	直営	プール		2	2	2	4.50	H30 大プール飛び込み台撤去工事 H27 プール防水塗装工事		

※1 長寿命:長寿命化改修対象 要調査:耐震診断・耐震補強対象 改築:建替え対象

②総合評価



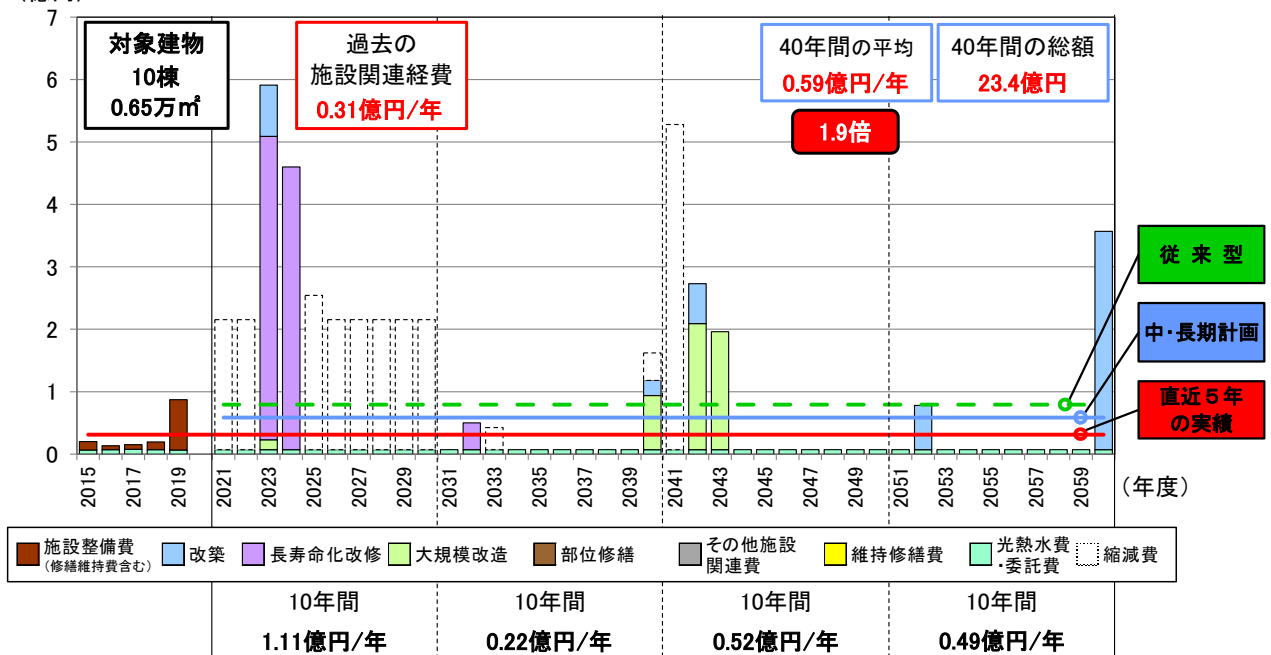
4 今後の維持・更新コスト（中・長期計画）

中・長期計画における、今後40年間の維持・更新コストは総額約23.4億円（0.59億円/年）となり、従来の改築中心の場合（図表3-8）の31.7億円（0.79億円/年）より総額8.3億円（0.20億円/年）、約26%の縮減となります。

また、長寿命化型での試算（図表3-15）総額26.9億円（0.67億円/年）より総額3.5億円（0.08億円/年）約13%の縮減となりました。

◆図表6-4 今後の維持・更新コスト（中・長期計画）

（億円）



コスト算出条件（中・長期計画）

・物価変動率は考慮しない。

基準年度: 令和2(2020)年度(試算期間: 基準年の翌年度から40年間)

改築: 更新周期 W造: 40年 S造: 60年 RC造: 80年

大規模改造: 実施年数 20年周期

単価設定: 図表6-3 分類別更新・改修単価表

改築単価 総務省 公共施設等更新費用試算ソフト「分類別更新単価」

長寿命化改修 改築単価の60% 大規模改造 改築単価の25%

プール: 更新周期 改築50年 長寿命化改修25年 大規模改修12年

改築単価 プール建設費を現在価格に換算

長寿命化改修 改築単価の60% 大規模改修 改築単価の25%

「その他施設関連費」に計上

第7章 長寿命化計画の継続的運用

1 情報基盤の整備と活用

学校施設台帳と併せて、改修・修繕履歴や劣化状況等を保管・蓄積することにより、本計画の推進に活用します。

2 財源の確保

学校施設の維持管理、改修、改築等は事業費が高額となるため、今後、限られた財源の中で実効性を高めるために、学校施設の運営面・活用面などの見直しを行うなど、総合的に検討します。

また、国の動向にも注視し、国庫補助事業（学校施設環境改善交付金ほか）や有利な地方債を有効的に活用して実施します。

【学校施設環境改善交付金】

- ① 新增築事業、改築事業
- ② 地震補強事業
- ③ 大規模改造等（トイレ改修、空調設備、障害児対策、バリアフリー化等）
- ④ 長寿命化改良事業（構造体の劣化対策を要する建物の耐久性向上、社会的要請による改修）
- ⑤ 防災機能強化事業（非構造部材の耐震化、避難所指定校への自家発電設備の整備等）
- ⑥ 武道場整備事業（中学校に柔道場、剣道場等を整備）
- ⑦ 太陽光発電等設置事業
- ⑧ その他施設整備事業（プール、グラウンド、学校給食施設、特別支援教育のための改修等）

3 推進体制等の整備

学校施設の所管課である教育委員会を中心に、本計画を含む学校施設マネジメントを行っていきますが、必要に応じて学校施設整備検討委員会（仮称）を設立します。

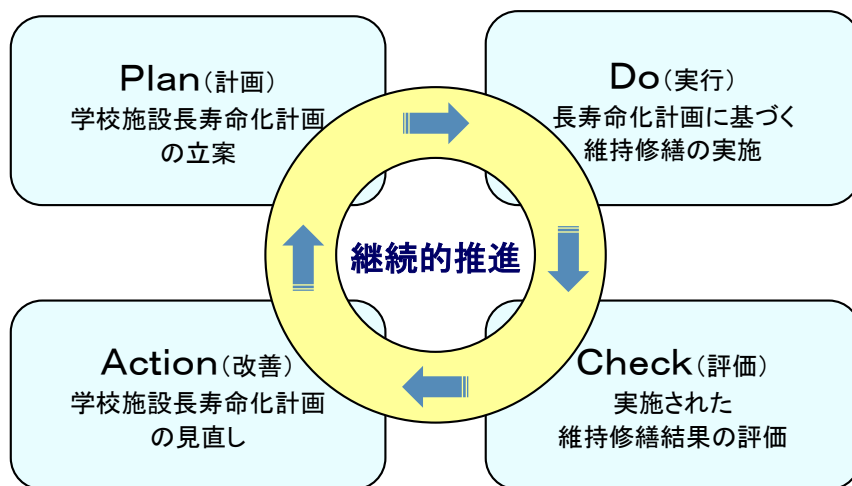
また、日常の施設管理の質を向上するため、専門業者による定期的な点検や各種報告書を活用して不具合箇所の早期把握と対応を図ります。

4 フォローアップの実施方針

本計画の進捗状況等についてPDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルを活用し、フォローアップを行います。

なお、事業の進捗状況、劣化調査などの結果を反映しながら、定期的な見直しを実施するとともに、国の制度変更や社会経済情勢の変化など、前提となる条件が大きく変わった時点で、適宜必要な見直しを行うものとします。

◆図表 7-1 PDCA（計画・実行・評価・改善）サイクル（イメージ）



辰野町塩尻市小学校組合立
両小野小学校施設長寿命化計画

令和3(2021)年3月

辰野町教育委員会

〒399-0493 長野県上伊那郡辰野町中央1番地

電話：0266-41-1681 FAX：0266-41-3379

